

ボゴタ日本人学校に勤務して

滝川市立滝川第三小学校
教頭 織田 靖雄

1. コロンビアってどこ？

コロンビア共和国は、南米大陸の北西部に位置し、北はカリブ海、西は太平洋に臨み、北西部でパナマに、東はベネズエラとブラジルに、南はエクアドルとペルーに接しています。国土の広さは日本の約3倍（約113万9,000㎢）で、人口はおよそ4,400万人です。南米大陸の太平洋岸を南北に走るアンデス山脈は、この国に入ると東部、中部、西部の3つの山系に分かれ、それぞれに3,000m～5,000m級の山々が連なっています。国土の最南端を赤道が横断する熱帯圏にありますが、地形と標高差によって4つの気候帯に分けられます。

一般に、3ヶ月ごとに雨期と乾期がくるといわれていますが、近年はあまり明確でなくなっているようです。



2. コロンビアの歴史

西暦1500年、コロンビアのカルタヘナに最初のスペイン人が上陸し、植民地が作られました。それまでは、チブチャ族など数多くの先住民が生活しており、彼らはインカやマヤにも劣らぬ高度な文化を持っていました。特に金の細工技術に長け、黄金郷伝説がここから生まれました。19世紀の初めにはスペインからの解放を求める独立革命が起こり、大コロンビア共和国が誕生しました。その後、ベネズエラとエクアドルが独立し、現在のコロンビアとパナマを含むヌエバグラナダ共和国が生まれました。19世紀の終わりには現行憲法のもとになる憲法が制定され、国名もコロンビア共和国となりました。20世紀初め、パナマ運河建設に関連してパナマが合衆国の援助のもとに独立し、現在の姿ができあがりました。



ラテンアメリカ解放者
シモン・ボリーバル

3. コロンビアの政治

コロンビアには伝統的に自由党、保守党という二大政党があり、かつてはこの両党間の争いがあまりに激しく、選挙前ともなると流血事件が頻発することもまれではありませんでした。

コロンビアには「FARC」・「ELN」という左翼系ゲリラ・グループがあり、勢力は衰えたとはいえ山岳部や密林部は未だゲリラの支配地域となっています。

2002年8月7日に自由党系右派のアルバロ・ウリベ氏が大統領に就任しました。任期は4年1期制でしたが、2006年再選法が可決され、再選が可能となりました。ウリベ大統領が再選されました。ウリベ大統領はFARC強硬派のイメージが強く、公約の優先事項としても違法武装勢力等による犯罪に対する治安対策強化を掲げました。現在もFARCやELN等による誘拐事件や爆弾事件が発生しているのが現状ですが、首都ボゴタでの治安は改善されつつあります。

2010年8月に、ウリベ大統領の後継者としてサントス氏が大統領に就任し、前任者同様治安対策に力を入れていると共に、就任直後より積極的に中南米各国首脳と会談を重ね、友好関係を深めようとしています。また、2011年9月には日本を訪問しました。

4. コロンビアの経済

コロンビアとってまず思い浮かべるのは、コーヒーではないでしょうか。コーヒー豆は、標高1,500m前後の地域で生産されています。その味は癖がなくおいしいです。

その他、砂糖・果物・切り花・米・じゃがいもなどが主要産品です。また、天然資源にも恵まれ、石油・石炭・ガス・金・エメラルドなどが採掘されています。

近年は日本にもたくさんの切り花が輸出され、ボゴタ周辺の農地にもバラやカーネーション栽培のハウスがたくさん建っています。



5. コロンビアの文化

スペインの征服によって先住民と白人は混血化し、植民地時代に強制的に移民させられた黒人もまた混血化が進んでいます。南米で最も混血の割合が高い国です。

宗教はカトリックで、国民のほとんどがカトリック教徒です。

公用語はスペイン語です。ボゴタは昔、「南米のアテネ」と呼ばれたほどの文教都市で、スペイン語はかなりきれいで訛りが少ないと言われています。英語は一流ホテルなどで通じますが、一般の日常生活ではあまり通じません。

6. 首都ボゴタ



アンデス山脈の北端、標高 2,650m の高原に広がるコロンビアの首都ボゴタは、経済活動の中心であるばかりでなく、コロンビア国立大学をはじめ大学 13 校、音楽院、各種アカデミー、博物館などを擁する南米有数の文化都市です。南北約 20km におよぶ市街地には、およそ 780 万人の人々が住んでいます。高地に位置するボゴタは、年間平均気温が 14 度という気候で、いつも色とりどりの草花が咲き乱れています。1 日中天候が安定している

ことはほとんどありません。特に雨期には落雷や雹をともなう激しい雨が降り、傘が必要となります。日によっては、日本の晩秋のような肌寒い天候が続くこともあり、セーターやジャンパーなどの上着も手放せません。

街頭に目を向けると、ベンツやBMWに乗るお金持ちと、低額のバスやタクシーを利用する人たちがおり（鉄道・地下鉄などはありません。汽車が単線で走っています）

中流階級が少ないのが当地の特徴だと言われています。強盗や誘拐、その他の犯罪などもあります。最近では市内のいたるところに警官が多く配備され、犯罪防止に力を入れています。また、通りでタバコや雑誌を売る人、雑巾を持って信号待ちの車のウィンドウを拭いたりして小銭をかせぐ子ども、物乞いをする人々の姿も見られます。

このように貧富の差の激しい現状があるため、富めるものから奪うという事件はあります。よく言われる治安の悪さには、このような背景があるのではないかと思います。



7. ボゴタでの生活

(1) 居住

派遣教員や日本人の多くは「ノルテ（北）」と呼ばれるボゴタ市北部の比較的安全な住宅街に住んでいます。それぞれのアパートは守衛（ポルテロ）が交替制で 24 時間警備しています。

ケーブル TV の発達でアパートでは CNN、BBC など 30 c h 以上の視聴が可能です。日本のアニメもスベ



イン語ですが多数放映されています。また、DIRECTV(米資本)によるNHKの国際放送も視聴できます。日本との時差は-14時間です。

普通の電気釜は気圧の関係で使用できませんが、圧力炊きのマイコンジャーを使うと、低地と同様に炊けます(圧力炊飯器は、日本から持参。当地では売っていません)。

天気の悪い日や夜は冷えるので暖炉がついていません。部屋は広いですが、掃除、洗濯、調理の手伝いなどはメイドさんを雇ってお願いしていました。



(2) 食生活

ボゴタにすんでいる人の食事は「肉」中心です。1枚400gぐらいの牛肉を昼食時にしっかり食べます。付け合わせにはジャガイモ、トウモロコシ、豆がよく食べられているようです。魚はほとんど食べません。また、野菜も食べないようです。そのため、日本食がヘルシーということで、中流階級以上の人はよく食べるようになってきました。

また、デザート類は豊富にあります。非常に甘く、日本人の口には合わないようです。それでも最近、甘さを抑えたケーキ屋さんが出始めました。

野菜は豊富にあります。日本で食べている野菜よりかたいです。特にキャベツは、生はもちろん、煮ても焼いても歯ごたえがありすぎて買いませんでした。月に1度、カリという街から日本野菜が手に入りました。価格は高めでしたがボゴタでは手に入らないものも多いだけに、よく利用しました。去年は、マニサレスという街からも日本野菜が手に入るようになり、定期的に宅配をしてくれるようにもなりました。



(3) 衣類等

当地の服装は春、秋、冬の物です。雨期は寒く、セーター等が必要です。アパートの部屋で過ごすときは、秋物ではちょっと寒いときもあります。現地の方はカッターシャツ1枚であったり、Tシャツの上に革ジャンを羽織ったり、そうかと思うとコート姿の婦人もいるといった具合です。3年間、ボゴタではほとんど半袖を着ることはありませんでした。服装で見る限り年中ほとんど変わりがなく、服装による季節感というものは感じられません。品質については年々向上してきています。ブランド品の店もたくさん建つようになり、様々な洋服が買えます。

革製品が安くオーダーメイドで靴や鞆を作ってくれる店がたくさんあります。デザインはそれほど多くありませんが、革の質もよく値段も安いです。



(4) メイド

コロンビアにはメイド(お手伝いさん)という職業が確立しています。コロンビアは夫婦共働きが多いため、早くから子供を預けて働きに出ます。そのため、子守や家事全般をやってもらうためにメイドを雇います。給与はあまり高くありません。

私が雇っていたメイドは30年のベテランで、長年日本人に雇われていたため、日本食はもちろん、日本食材の扱い方までわかっていました。なんと、豆腐を大豆から作ることができました。

(5) エスコルタ

コロンビアは貧困からくる犯罪やゲリラによる誘拐が後を絶ちません。そういう背景もあり2002年の6月から各教員に1人の警護員を雇用しています。通勤時を中心に警護員同伴で出かけます。(当然武器携帯です)

(6) 医療事情

高度2,650メートルにあるボゴタ市で生活するという事は、日本では毎日富士山の6~7合目付近で生活をしていることになります。当然酸素が薄いのでしばらくは、不眠、頭痛などの高山病症状を起こす人もいます。

水道の水はそのままでは飲まないようにしていました。飲料水や料理用の水はポストボンという水道水より清潔な水を買って使用していました。ボゴタには特別な風土病というものはありませんし、気温の関係でマラリア、黄熱病等の熱帯特有の病気の心配もありません。



医者はアメリカの大学出身が多く、医療技術も進んでいるように思います。病院も24時間体制で見てくれるところもありますし、基本的には何も心配はいりません。歯科の技術は日本より進んでいると言われており、歯の矯正もこちらでは格安でできるので、矯正中の児童・生徒も多くいます。



(7) 交通

ボゴタの交通事情は決して良いとはいえません。経済成長が続いているので、年々車の台数が増え、今は常時渋滞しています。また、大量輸送手段が「トランスミレニオ」と呼ばれる連結バスだけですので、必然的に車が増えます。しかし、自家用車は庶民にとっては高嶺の花でありなかなか買えないことから、バスやタクシーを利用しています。そのため、タクシー、バスの量が半端じゃありません。運転手の給



与も歩合制のため、客をたくさん乗せようと乱暴な運転手が多く事故も多発しています。現在、地下鉄を走らせる計画が進んでいますが、地盤の関係もあり、どこまで実現できるか疑問です。

(8) 娯楽

ボゴタの中心部（セントロ）は治安上の不安があり、気軽に観光を楽しむというわけにはいきませんが、歴史を感じさせる教会等の建物をはじめ博物館等の施設も数多くあります。



日本人の多く住んでいる北部（ノルテ）には、しゃれた店や大きなデパートもあり、ショッピングを楽しむことができます。

スポーツについては、日本のように気軽に行ける施設は少なく、商社などの駐在員のほとんどは、会員制のクラブに加入し、テニスやゴルフ、乗馬などを楽しんでいます。

遊園地、映画館、劇場、ボウリング場などもあります。日本食レストランも何軒かあり、かなり割高ですが、刺身、寿司、てんぷらなどの日本料理を楽しむことができます。



3連休（コロンビアは多い）や長期休業には、低地の暑いところに出かけゆっくり過ごすことができます。汗をかくことの少ないボゴタでは、健康上欠くことのできない楽しみのひとつです。

8. ボゴタ日本人学校

(1) 概要

ボゴタ日本人学校はボゴタ北部の文教地区に位置しています。周りには幼・小・中・高一貫教育の学校があったり、理工系の大学あったりします。



ボゴタ日本人学校は、知・徳・体のバランスのとれた児童生徒の育成を図るため、“めざせ 地球人！”を合い言葉に、「基礎基本の定着」「コミュニケーション能力の向上」「心と国際理解教育の充実」に重点を置き、少人数を生かした丁寧な指導で成果を上げてきています。

一般に使っている「ボゴタ日本人学校」という名称は通称であり、正式には「在コロンビア日本国大使館附属日本人学校」といいます。名前が示すとおり大使館と強いつながりを持っている学校です。一方コロンビアでは「Asociacion Cultural Japonesa」（日本文化協会）を登録名称としています。これは、コロンビアにおいて学校登録を行うためには、コロンビアの教育課程を行わなければならないということで、日本文化を学ぶところという形で登録をしています。

(2) 児童・生徒

平成22年度は転入児童生徒が多く、欠学年がなくなりました。平成23年は震災の影響から一時避難の家庭を数家庭受け入れ前年並みの人数となりました。平成24年度は20名でスタートしましたが、一時避難の家庭が帰国、派遣教員の子女が帰国するなど平成25年スタート時には減少予定でした。

24年度に特徴的な転入は、在京コロンビア大使館職員の子供2名が入学したことです。本来、日本国籍を持たない児童生徒は入学を許可されていません。しかし、この子供は、日本で日本の教育を受けており日本語も十分しゃべることや大使館からの要請もあり、理事会において入学が許可されました。

子どもたちは明るく素直で、何事にも全力で取り組みます。年齢差はありますが上級生が上手に下級生の面倒を見ながら活動を行っています。一体感があり、家庭的な雰囲気を作り出しています。

(3) 特徴的な教育活動

① コロンビア学習

コロンビアについてより理解を深めるとともに、日本や自分との係わりを認識するために低・中・高・中学部で大テーマを設定しそこから個人テーマを考え、1年を通じて自分の課題を徹底的に追求する活動です。年度末には保護者や調査に協力していただいた関係機関の方を招いて発表会を行っています。

24年度の低学年では「仕事」を通して実際スーパーマーケットでのパン作り体験を紙芝居形式で発表し、中学年ではコロンビアの伝統競技「テホ」を材料に、日本の遊びと比較しまとめていました。高学年はコロンビアにおける「JICAの活動」をJICAの職員や隊員より聞き込んだ資料から日本とコロンビアの関係を深く追求していました。中学部は23年度の資料を基に道路舗装の改善について新しい資料を基に提案書という形で、水については下水処理を日本と比較し環境対策にも目を向けた発表を行っていました。

② 和太鼓演奏

日本人としてのアイデンティティーを確立するために、日本人の文化・伝統の理解と実践を教育活動の中に取り入れています。特に和太鼓演奏は、在留邦人がたくさん集まる運動会や学芸会、そしてPTAが主催するきさらぎ祭で披露し、年1回行われる各国大使館婦人が主催するチャリティーに出演し、多くの来賓の前で演奏を披露しています。



③ 書き初め大会

冬休み明けには「書き初め大会」を一堂に会して行っており、低学年は硬筆、中学年以上は毛筆でそれぞれの課題を書き上げます。ピーンと張り詰めた空気の中、緊張感あふれる時間を全校生徒で共有しています。

④ 「日本語」と先を見通した「スペイン語」「英会話」学習

ボゴタ日本人学校には、長年にわたってコロンビアで生活をしている児童生徒が数多くいたためコロンビアを知り日本を理解する学習を行うとともに、生活する上での語学学習も欠かせません。「日本語」は幼児期にスペイン語環境にいるため十分に日本語が理解できないことから学校生活でおきる支障をできるだけ少なくするために4年生以下で実施しています。一方、「スペイン語学習」「英会話」も卒業後、現地の上級校に進む上でも困らないようなレベルまで高める学習コースを設定し、ニーズに合ったクラス分けを行っています。



9. 3年間の赴任を通して

<1年目>

赴任早々、秘書の退職や事務長の突然の退職があり、学校事務が混乱する中、校長の強いリーダーシップで困難を乗り切ることができました。しかし、自身の力量不足と取組の甘さから校内および配偶者の問題を十分処理できず、学校の評価を落とすこととなってしまいました。教頭としては大失敗の1年でした。この反省を生かし、先生方とともにしっかり話し合い、2年目を迎えることを決心しました。

<2年目>

昨年の反省から、先生方との連携を強めるとともに指示を明確に出すことにより1つずつ結果を出すことに集中しました。先生方が一枚岩になったこともあり、行事等で再び評価を上げることができました。特に10月にボゴタで開催した中南米校長会議では、子どもたちの生き生きと活動に取り組む姿勢を見せることができ、大成功に終わりました。

一方、学校財政では校長の指導の下、会計の流れを整理し支出を極力抑えたことにより念願の黒字とすることができました。

<3年目>

昨年の教師力を保ちつつより高評価を得るよう全力で取り組みました。しかし、昨年採用し期待をかけていた現地教員が途中で突然の退職。すぐに校内体制を再編し動揺を最小限に抑えました。教頭業務については教頭未派遣を念頭に業務整理をし、引継ぎ書の作成を行いました。各分掌の仕事内容の引継ぎ書もしっかりと作成させ、ファイルにて保管させました。

管理職として赴任した学校でしたが、子どもたちと共に活動し情報を共有しながら他の先生方と協働して指導した3年間はとても有意義でした。また、先生方1人ひとりを学校経営に参画させる意識を持たせたことにより学校の評判が再び、日本人社会の中で高くなったことは何よりもうれしいことでした。今日本でも「結果」を重視した教育活動が行われてきていますが、この感覚を肌で感じられたことはかけがえのない体験でした。